

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 第3期鶴ヶ島市環境基本計画に反映すべき課題（40分）</p> <p>気候変動による自然災害と、今現在私たちの日常を大きく変えてしまった新型コロナウイルス感染症。この2つの大きな問題は、地球温暖化、森林破壊などの環境問題と切り離して考えることはできません。</p> <p>環境を軽視してきたことで、まわりまわって大きな経済的、社会的損失をもたらすという点で、共通しています。コロナ危機で停滞した社会を、気候変動を抑え、生態系を守りながら立て直していくことが求められています。</p> <p>今年度第1回定例会において、市としてまず取り組むべきグリーン購入の促進について質問しました。これまで、5R、温暖化、異常気象、エネルギー等の環境に関わる市の施策について聞いてまいりましたが、その取り組み方は、総合計画のベースにもあるSDGsによってさらに深められていると考えられます。</p> <p>スウェーデンの首都ストックホルムにあるレジリエンス・センターのヨハン・ロックストローム氏らによって2016年に提唱された「SDGs ウェディングケーキモデル」では、持続可能な開発目標の17のゴールを「生物圏」「社会圏」「経済圏」の3つの層に分類しています。</p> <p>このモデルは、一番下の層の生物（地球環境）の基盤があることで、社会、経済が成り立っていることを表しています。日本は生物圏に含まれる目標のうち13, 14, 15の3つはまだまだ改善の余地があると言われていました。</p> <p>環境、社会、経済という3要素の関係性を意識しながら、課題の解決に向き合うことが求められていると思います。</p> <p>対応を迫られる環境課題のスケールは変容しております。</p> <p>現在、取り組まれている「第3期鶴ヶ島市環境基本計画」の策定において、反映すべきと考えられる課題について伺います。</p> <p>(1) 地球温暖化への対策について ア 脱炭素化に向けての取組は。 イ グリーン購入促進は。 ウ 生活の行動変容の促進は。 エ 国からの支援体制は。</p> <p>(2) 気候変動への適応について ア 地球温暖化の影響による被害の回避と軽減対策は。 イ 事業者への地球温暖化対策の周知は。</p> <p>(3) 生物多様性の地域戦略について</p> <p>(4) SDGsの実現化に向けた基本的な考え方と計画への反映について</p>	市長

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>2 放課後の子どもたちの居場所づくり (20分)</p> <p>女性の年齢別労働力率についての国勢調査の資料によると、子育て期に減少する「M字曲線」が、年々、Mの谷の部分が減少傾向にあり、子どもたちの子育て環境もどんどん変化していることがわかります。</p> <p>本市も、増加傾向にある保育需要に対応して、保育施設・放課後児童クラブ（学童保育室）の整備に取り組んでいますが、平成26年に策定された元来の「放課後子ども総合プラン」によれば、共働き家庭の児童に限らず、全ての児童が放課後の多様な体験・活動を行うことができるようにすること、そして、全ての児童を対象として総合的な放課後対策を進めることを目指しています。</p> <p>令和4年5月1日現在、小学校8校の児童数は3,073人ですが、学童保育室の入室者数は約900人です。2,000人余りの児童の中には、下校後に一人で家で過ごしている場合も多いのではないのでしょうか。</p> <p>第2期鶴ヶ島市子ども・子育て事業推進計画によれば、「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」一体型と連携型の事業の進捗状況が報告されていますが、引き続き放課後子ども教室の整備を進めていく必要があることも示されています。</p> <p>第6次鶴ヶ島市総合計画の重点戦略「子どもにやさしいまちづくり」では、妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実に取り組んでいますが、就学してからの子どもたちへの見守りは充分に行き届いているのでしょうか。</p> <p>放課後の子どもたちの居場所づくりについて、当市の現状と課題、そして今後の方向性について伺います。</p> <p>(1) 市民の子育てに関する現状の把握について、特に学童保育を利用していない児童の保護者のニーズの把握について</p> <p>(2) 放課後子ども教室の現状について ア 一体型の開催日数と参加児童数は。 イ 連携型の開催日数と参加児童数は。</p> <p>(3) 横浜市における「放課後キッズクラブ」の取組について</p> <p>(4) 放課後の子どもたちの居場所づくりの今後について</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>